

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概要
1 (学術論文) Relationship between velocity changes and subjective effort in top-level high-school 400 m hurdlers (400m ハードル高校生トップ選手の速度変化と主観的な努力度の関係) (査読付)		共著	2018年3月	運動とスポーツの科学、23(2)	本研究では、400m ハードル高校生トップ選手におけるパフォーマンス、レースパターンと主観的な努力度の関係を明らかにすることを目的とした。その結果、主観的な努力度の高低はレースパターンのタイプに関係することが明らかになった。また、スタートから2台目までのハードルまでは相対的に遅いペースで走行し、5台目から8台目のハードルまでは相対的に速いペースで走行することが重要であることが明らかになった。 頁数:79-87 担当部分:仮実験や本実験への協力、論文の加筆修正への協力に寄与 著者名:尾崎雄祐、上田毅、福田倫大、 <u>足立達也</u>
2 (学術論文) The difference between movement and self-recognition in children performing the standing long jump (査読付)		共著	2019年11月	Global Pediatric Health、6	本研究では、10歳から11歳の子どもを対象に、立幅跳実践時の動作認識と実際の動作の違いを比較検討した。その結果、立幅跳の跳躍動作中において、目標とする動きの肩関節最大角度は、実際の動作よりも大きいことが明らかとなった。また、実際の動作は自己認識の動作よりも小さいことが明らかとなった。 頁数:1-9 担当部分:本論文の分析方法の検討、データ整理、論文の加筆修正への協力に寄与 著者名:安江美沙子、上田毅、福田倫大、 <u>足立達也</u> 、尾崎雄祐
3 (学術論文) 異なる重量を用いたスレッド牽引走が加速局面の接地期における疾走動作に及ぼす影響 (筆頭論文、査読付)		共著	2022年6月	陸上競技研究、129	本研究では、異なる重量を用いたスレッド牽引走が、加速局面においてどのような疾走動作を引き出しているか明らかにした。その結果、体重の30-50%の重量を用いた中・高重量のスレッド牽引走では、前傾角度が大きくなること、股関節角度が小さくなること、下腿角度が大きくなることが示された。 担当部分:本研究の筆頭研究者として、本実験、データ処理、統計処理、論文執筆に寄与 著者名: <u>足立達也</u> 、尾崎雄祐、上田毅